

幻想水滸伝考察本 I

GENSOSUIKODEN

The consideration book about Suikoden series.

Annie Tsuji



幻想水滸伝考察本 I

GENSOSUIKODEN

The consideration book about Suikoden series.

Annie Tsuji



はじめに

私が幻想水滸伝シリーズを初めてプレイしたのは、今から約16年前の高校2年生の頃。クラスメイトの友人に、「騙されたと思ってやってみて！」と半ば強引に薦められたのがきっかけでした。その時友人が貸してくれたのが「幻想水滸伝2」です。

当時より、語学・歴史・文化にただならぬ興味を持っていた私ですが、それはとりわけ欧米諸国に対してのもので、日本や中国などの東方諸国に対しては全くと言っていいほど興味がありませんでした。なので、名前からして東洋色の強い「幻想水滸伝」はどうも食わず嫌いをしていました。それでも、毎日毎日友人が「どこまで進んだ？」としつこく訊いてくるので、仕方なく重い腰を上げ、付き合いのためにプレイし始めたのが始まりです。

しかし、プレイし始めてまもなく「幻想水滸伝」の魅力に気付かされます。

敵も味方もない「戦争」をテーマとしたシナリオ、作りこまれた世界観。映画や小説、芸術品等と肩を並べる「作品」としてのゲームに、今まで自分がプレイしてきたゲームは一体何だったんだ……と衝撃を受けたのを覚えています。そこから幻想水滸伝ファンになるまで、もはや時間は要りませんでした。

やがて時が経つにつれ、ゲームも進化し、元来のゲーマーですからそれなりに様々なタイトルもプレイしましたが、いまだに「幻想水滸伝1・2」を超えるゲームには出会ったことがありません。そんな私がなぜ、16年経った今になって幻想水滸伝についての考察をしようと思ったのか。

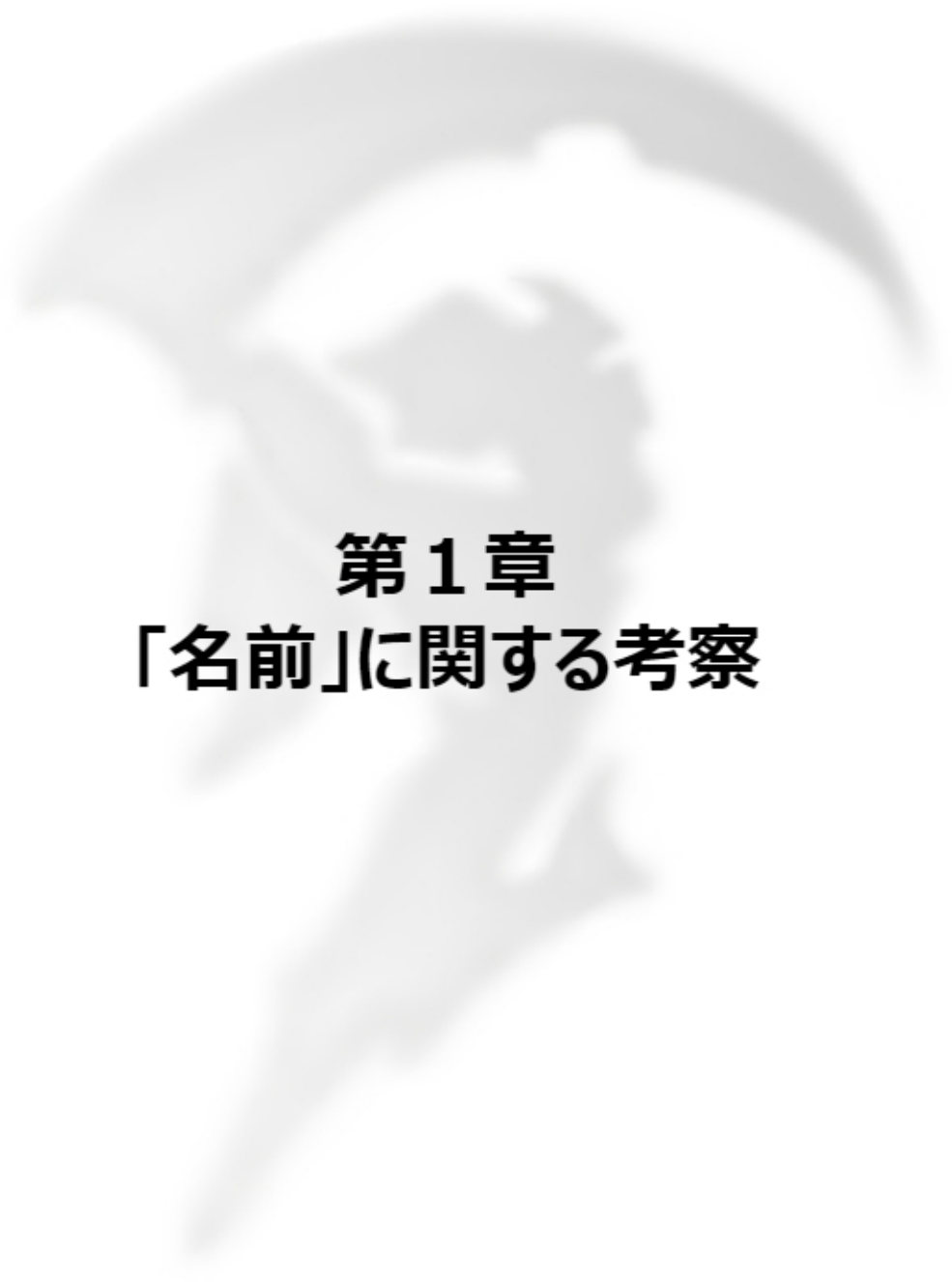
それは、どんなに時が経っても常に心の中には「幻想水滸伝」があったこと、そして、この約16年間に様々な見聞を広め、幻想水滸伝世界との共通点を自分なりに見出してきたからです。しかし、考察をすればするほど幻想水滸伝の世界は深く、制作者がいかに設定（設計）に時間を注ぎ込んだかについて考えさせられます。

私の考察は基本的に、自身の得意分野である語学、世界史、比較文化等の知識を活かし、制作者サイドの観点で考察するスタイルです。なので、現実世界との比較が多数出てきます。しかし、それが全て真実というわけではありません。あくまでも私が考察する、推測の上でのお話です。

また、私の考察（解釈）が全て正しいというわけでもありません。もしどなたかが私の考察を読んで「いや、こういう見方もできるはずだ」というものがあれば、それがまたその方の一つの考察（解釈）となります。

私は他の方の考察を否定する気はないし、むしろ私の考察が幻想水滸伝という作品について、幻想水滸伝ファン同士で語り合えるきっかけになればな、と思っています。

ですので、このあとのお話は全て私の解釈であることを踏まえた上で、お楽しみくださいませ。



第1章
「名前」に関する考察



解放軍のアジトがある「レナンキャンプ」の街。海外版 Suikoden では「Lenancamp」と表記されるようです。

このスペルを見た時、ふと、Lenancamp は Lenan + camp の二つの単語で成り立ってるのでは？と思いました。

Lenan というのはアイルランドに起源を持つ姓で、Lennan や Lennon と表記するそうです。そう言えば、かの有名な John Lennon もリヴァプール出身でしたね。この Lennan という名は「愛する人」（主に神の愛する）を意味するそうです。Camp は言わずもがな、米軍キャンプなどと言う言葉もあるように、野営する、仮に住む、といった意味がありますね。となると、lenan camp = 神の愛する人の野营地 or 仮住まい、という意味になります。

前に述べたように、ストーリー序盤、レナンキャンプには解放軍のアジトがありました。つまり、レナンキャンプという街の名は、まさに解放軍のアジトの存在を表した名前なのでは？と思います。

レナンキャンプに解放軍のアジトが置かれている時点では、解放軍のリーダーはオデッサです。しかしその後、オデッサは死に、1 主がその志を受け継ぎ解放軍のリーダーとなります。

幻想水滸伝のモデルとなった水滸伝では、天魁星の宋江（1 主）が自らと仲間達が宿命で結びついていることを知り、以後、九天玄女（レックナート）の加護を受けることとなります。尚、九天玄女は中国神話の女神とされています。

つまりは、1 主がやがて解放軍のリーダーとなるストーリー展開を見越して制作者が付けた暗号的な名前なのかなあ、と。



かつてトラン湖を囲む一体を支配していた赤月帝国。ハルモニア神聖国の内乱に乗じて聖都ルパンダを占拠し、独立したのが建国の起源です。

聖都ルパンダはフランス語で *le panda* と置き換えることができます。フランス語の *le*（男性名詞）は英語でいうところの *the* と同じ。そう、つまり「パンダ」を意味します。ちなみにフランス語でジャイアントパンダは *Le panda geant* と書きます。

パンダと言えば中国ですね。その中国が「赤い帝国」と呼ばれるのはご存知でしょうか？そしてその中国の国旗は赤地に5つの黄色い五芒星を配したもので、五星紅旗と呼ばれます。

中国のイメージを幻水世界に取り入れるため、あえてこの「星」を近い別物である「月」に変え、「赤月帝国」としたのではないのでしょうか。

幻想水滸伝はその名の通り中国四大奇書の「水滸伝」をモチーフにしており、特にシリーズ1作目は2作目以降に比べてそれが色濃く出ていますからね。赤月帝国＝中国がモデルだと言われても何も不思議ではありません。

後に赤月帝国は門の紋章戦争によって瓦解し、トラン共和国へと生まれ変わります。国家元首に君主を置かない共和制国家という点も中国との共通点の一つですね。ちなみに日本は君主（天皇）制国家です。



幻想水滸伝のプレイ以来、ずっと気になっていたことがあります。それは、「グレッグミンスター」という名前の由来について。

グレッグミンスターを英語に置き換えると Greg minster. Greg は Gregory という男性名の略称。Minster は大聖堂。つまり、「グレゴリー大聖堂」という意味になります。しかし、見る限りグレッグミンスターは宗教国家ではなく、街に聖堂らしき建物すら見当たりません。赤月帝国の初代皇帝クラナッハ・ルーグナーは、一体なぜ、聖都ルパンダを「グレッグミンスター」へ改名したのだろう、と。

Twitter 上で@zpln5ml 様が赤月帝国の名前の由来について、「赤月帝国→暁→明けの明星→ルシファーと墮ちた皇帝」からではないかと考察されていました。

ルシファーとは、明けの明星を指すラテン語で、「光をもたらす者」という意味をもつ悪魔・墮天使の名前。キリスト教では、悪魔=罪によって墮落した天使であるとされ、「天使が罪を犯す」という問題について多くの神学者たちが論じました。そのうちの一人である大グレゴリウスは、罪を犯して墮落する前のルシファー（サタン）はすべての天使の長であったとし、ルシファーはかつて最高位の天使である熾天使か智天使の一人であったと考えたのです。ルシファーにとって、この説は救いの光に思えたことでしょうか。ちなみに、このグレゴリウス（Gregorius）という名前、Greg という略称になると思いませんか？

では、大聖堂（Minster）はどういう場所でしょうか？キリスト教文化に馴染みの無い日本では少々理解し難いかもしれませんが、教会や大聖堂というのはキリスト教徒にとって「懺悔する」場所です。

つまりグレッグミンスターは、黄金皇帝バルバロッサ（光をもたらす者）が罪を犯し、やがて墮落する（ルシファー）というシナリオから名付けられた、彼の魂の救いの場なのではないかと。黄金皇帝バルバロッサの魂が自分の過ちに気づき、罪を告白したからこそ、グレッグミンスターは「さらに栄し美しき黄金の都」へと変貌出来たのかもしれないね。

生きてさえいれば幾らでも懺悔は出来ますが、死んでしまっただけではそれも叶いません。バルバロッサも愛する人を失った弱みにつけ込まれた言わば被害者ですので、「グレッグミンスター」という名は言わば制作者側の「優しさ」なのかな、と考察を進めていく中で感じました。



幻想水滸伝でクリンくんは言っていました。

「レパントには大事にしているものが二つある。一つは、妻のアイリーン。もう一つが、銘刀キリンジさ。」と。

妻のアイリーンについては言わずもがな、銘刀キリンジについては、なんとなく他のゲームでも見かけたことがあるような気もして、てっきりエクスカリバーやグングニル、天叢雲のような、神話等に存在する武器の名前なのかな、と思っていました。しかし実際のところ、キリンジは「麒麟児」と表記し、才能が優れていて、将来が期待される少年（神童）のことを意味するそうです。

中国儒家の経典『礼記』において、麒麟は王が仁のある政治を行うときに現れる神聖な生き物であるとされ、鳳凰、亀、龍と共に「四霊」と総称されています。このことから、幼少から秀でた才を示す子どものことを、「麒麟児」と言うのだそうです。

レパント自身でさえも使用することなく、大切に自宅で保管していた銘刀キリンジを、幻想水滸伝2では息子シーナが受け継ぎ使用していましたね。ともすれば、クリンくんは一つ大きな勘違いをしていることに気が付きます。

レパントが大事にしている二つのものとは、妻のアイリーンと“息子のシーナ”だったわけですね。レパントは、目に入れても痛くない程可愛い息子シーナのために銘刀を手に入れ、「キリンジ（麒麟児）」と名付けた。

もう一度言いますが、「麒麟児」とは幼少から秀でた才を示す「子ども」のことです。例えば、将来こういう立派な大人になって欲しい、という希望を込めるなら「麒麟児」とは名付けないでしょうから、レパントにとっては愛息子のシーナが何事においても一番秀でている、と感じていたことがわかります。

いつの時代も、どこの世界も、大切な我が子への「親バカ」な想いは変わらないということなのでしょう。銘刀キリンジから思いがけずレパントパパの深い愛情を知ることが出来、なんだか心がほっこりした今回の考察でした。



言わずと知れた「ブタは死ぬ!!!」の台詞でお馴染みの、ハイランド王国の狂皇子ルカ・ブライト。海外版 Suikoden2 では Luca Blight と表記します。

日本語では単に「ブライト」と発音・表記する単語でも、英語では L と R の使い分けによって「bright」と「blight」という2つの単語となり、それぞれ意味も全く異なります。これが英語の本当に面白いところ。ちなみに blight は（士気・希望などを）くじくもの、障害（となるもの）、暗い影という意味で使われ、bright は明るい、輝く、あざやかなというような意味で使われます。

従って、名は体を表すということで、ブライト（Blight）王家の名は、幻水2の大筋のシナリオがあった上で付けられたものと推測します。

ちなみに、フッチが洛帝山で出会ったはぐれ竜のブライトは後者で、海外版 Suikoden2 でも Bright と表記されています。

あれだけ狂皇子ルカ・ブライトの凶行が都市同盟領を賑わせているのに、洛帝山で出会ったはぐれ竜に「今日から君はブライトだよ・・・」とブライト王家の名を名付けるフッチのネーミングセンスを疑ったプレイヤーも少なくはないはずwしかし、日本語では同じ「ブライト」でも、英語では「Bright」と「Blight」は全くの別物なんですね。そうすると、フッチのネーミングセンスを疑ったのは恐らく日本の幻水ファンだけなのかも知れませんね。



実は「フリック」という名前、一般的には女性の名前だって知ってましたか？

英語圏では Felicity という女性名の略称として Flik と呼ばれるのが一般的です。ちなみに Felicity という名前はローマの幸運の女神 Felicitas に由来します。

ローマの幸運の女神から名前をもらいながら、あの運のステータスの低さ。日本でも“「幸」という漢字を使うと恵まれない”なんて迷信がありますが、そんな感じなのでしょう。

いずれにしる、制作者側の意図が見え隠れしているようにしか思えません・笑

「ヒックス」は Hicks (英) ではなく Hix (独) と綴るんですね。

某海外サイトによると、Hix は「戦い」や「闘争 (心)」を表し、あえてペットに多くつけられる名前なのだそうです。闘犬や闘牛、競走馬みたいな感じでしょうか。

一方のテンガアール (Tengaar) については幾らググっても情報が全く出てきません。どうも海外に実在する人名ではなさそうです。

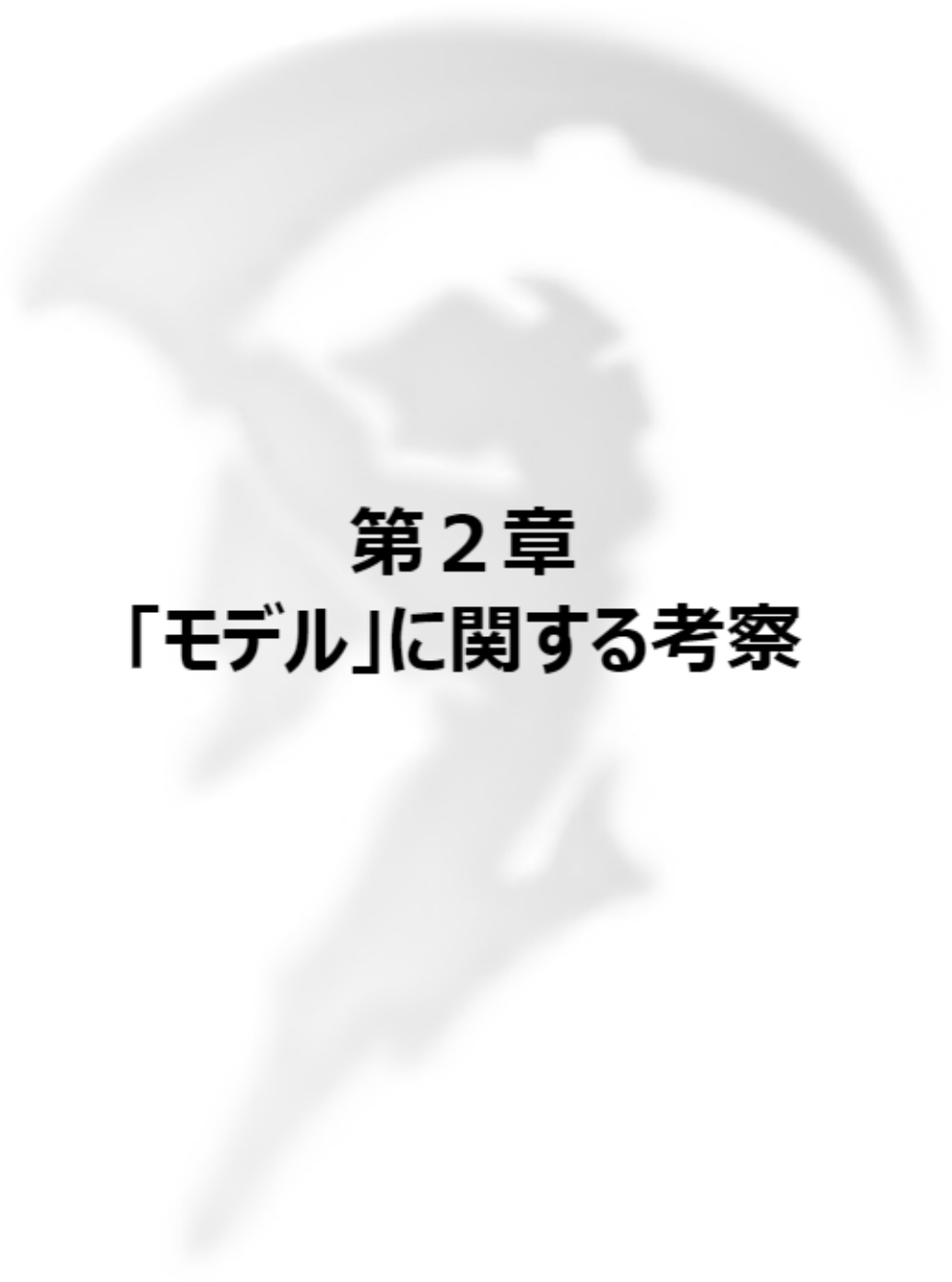
そこで原点に立ち返ってそのままの意味で捉えてみることに。

テンガ (典雅) がアール (有る) …

典雅とは、正しく整っていて上品な様。雅やかな様。という意味で、日本古来では女性の人名としても使用されていたそうです。

戦士の村ではどうも、幸せに育ててほしい (フリック) とか強い子に育ててほしい (ヒックス) というように親の願いを込めて子供の名前をつける習慣があるっぽいので、可愛い娘に「雅やかで上品に育ててほしい」という願いをこめて「テンガアール」と名付けてもおかしくはないのかな、と。

しかし、フリックにしてもヒックスにしてもテンガアールにしても…ことごとくその名に反した人間性に育ってしまっているの、そのうち戦士の村でも日本で言う“名前に「幸」を使うと不幸になる”のような迷信やジンクスが生まれそうですね・笑



第2章 「モデル」に関する考察



幻想水滸伝2の名シーンの一つでもあるルカ・ブライト奇襲作戦。あのシーンは、中国戦国時代にあたる紀元前341年に魏と斉が激突した「馬陵の戦い」がモデルであると推測します。

同盟軍

レオン・シルバーバーグの伝言により、ルカによる夜襲を知る

斉

宿営地のかまどの量を敢えて減らし、
斉軍兵士が逃げている（戦力が減っている）と見せかけ、敢えて魏に進軍させる

と、その契機に違いはありますが、ルカ・ブライトと魏将・涓（ほうけん）への奇襲策においてはこんな共通点があります。

ルカ

蝋を入れた木彫りのお守りを目印にシュウが兵に一齐に矢を放たせる。

龐涓

斉の軍師・孫臏（そんひん）が伏兵を指揮する將校に
「火が見えたら一齐に弓を放て」と厳命する。

夜、涓が馬陵に到着すると、大きな木に何か書かれているのを発見するのですが、辺りが暗くて何が書かれているのか全く分かりません。そこで兵士達に松明を持って来させ樹木を照らさせると一齐に弓矢が飛んでくる、という話です。

涓の体には1万人が放った矢が突き刺さり、彼は即死してしまいます。

どうでしょう、ルカ・ブライトの最期に非常に酷似していると思いませんか？

ちなみに樹木には「魏将・涓ここに死す」と書かれていました。

XXX: トラン湖の城のモデルに関する考察（幻想水滸伝より）

幻想水滸伝のモデルでもある「水滸伝」。架空の話だと思われがちですが、実は、実際に中国で起きた出来事を基に構成された物語なのです。従って、例えば、幻想水滸伝の本拠地であるところの「梁山泊」なんかももちろん実在します。それがこちら。



中国・山東省にかつて存在していた梁山湖のほとりに位置し、大きな山全体を総称して「梁山泊」と呼ばれます。元々は周りを沼沢に囲まれていましたが、今は水が無くなり、陸地だけの山寨になっていて、観光施設などが作られているようです。

岩々しい感じはトラン湖の城のそれにも近いですが、とは言え、私たちが知っているあのトラン湖の城とは何だか少し違うような気がしますよね。では、幻想水滸伝の本拠地・トラン湖の城は一体どこをモデルにしたものなのでしょうか？

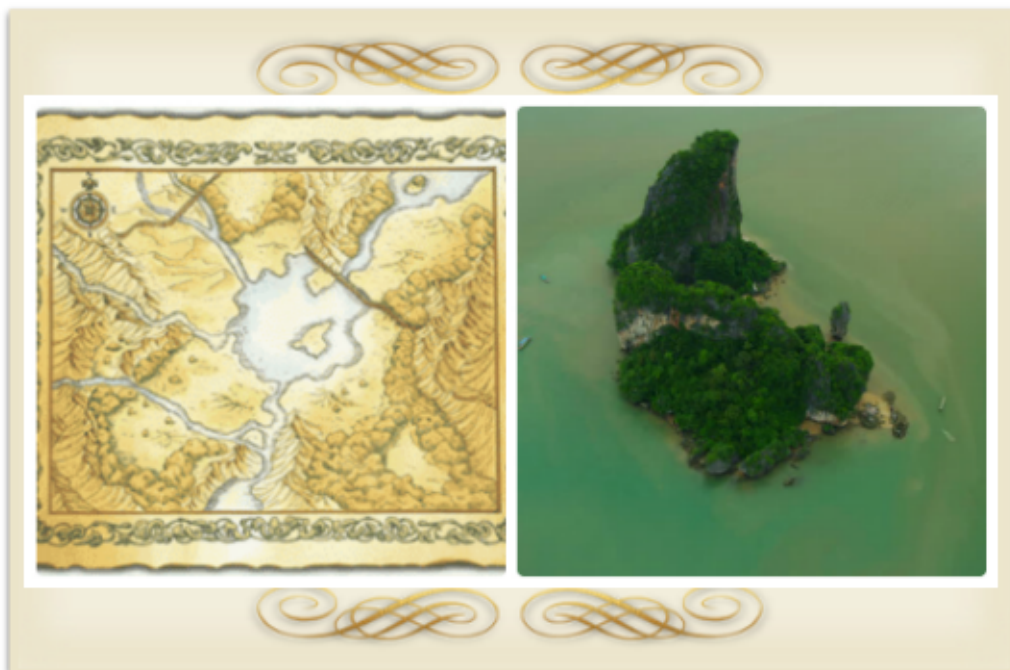
海外の方の考察や Google 画像検索等から辿り着いた結論がこちら。タイのジェームズボンド島です。





人気リゾート地でもあるプーケットから程近く、映画『007 黄金銃を持つ男』のロケ地でもあるそうですから、行ったことのある方もいらっしゃるかもしれませんね。

上空から見る島の形も、トラン湖に浮かぶそれに非常に似ています。



実は、タイには「トラン」という県名も存在するんです。しかも、このジェームズボンド島からそう遠くはない位置に。

それにしても、プーケット良いですね！幻水ファンとしては、死ぬまでに一度は実際にこの目でリアルトラン城を見てみたいものです。

XXX: トラン湖のモデルに関する考察（幻想水滸伝より）

幻想水滸伝の本拠地の在るトラン湖。水滸伝では、梁山泊は梁山湖（現在の東平湖）のほとりに位置しますから、純粹に考えれば、トラン湖＝東平湖と考えられますが、実はこの東平湖よりもトラン湖にふさわしい湖が存在します。それが、東平湖の南東に位置する太湖。この通り、姿形もそっくりです。



と言うのも、梁山湖は黄河が氾濫して一時的に出来た湖（浸水地帯）なので、今はもう無いんですね。現在地図で確認できるのは東平湖のみです。しかし、梁山湖は東平湖をも飲み込んで出来た湖ですから、東平湖よりも遥かに大きかったでしょうし、東平湖をトラン湖（梁山湖）のモデルにするにはあまりに小さすぎて、「トラン湖一帯を支配する大国・赤月帝国」という設定のわりには湖の印象が薄くなってしまおうことでしょう。そこで、東平湖の南東に位置する東平湖の約 15 倍の面積をもつ太湖に目をつけ、梁山湖の代わりとしてトラン湖に当て嵌めたのではないのでしょうか。

幸い、太湖にもトラン湖の城（梁山泊）にふさわしい中島が存在していますし、何より実在する湖です。制作側としてはこんなに都合の良いことはありません。

XXX: ハルモニア神聖国の身分制度に関する考察（幻想水滸伝シリーズ全般）

ハルモニア神聖国の身分制度は、古代ローマ帝国のそれに非常によく似ています。

	ハルモニア神聖国	古代ローマ帝国
一等市民	貴族等の富裕層	皇帝、元老院議員、貴族、騎士
二等市民	昔から忠誠を誓っていた国の一般市民	ローマ市民
三等市民	侵略・併合された国や地方の者	

ちなみに、三等市民は更に以下の三種類に区別されます。

植民市民	一般人・ローマ人同等の市民権は認められたが自治権は認められず。
自治市民	市民権は民法面が認められる（但し上層市民のみ）。軍事・裁判を除き自治権が認められた。
同盟市民	市民権、自治権のいずれも認められず。

三等市民の意味合いとハルモニア神聖国の規模を考えると、ハルモニア神聖国も古代ローマ帝国のように、征服都市の分割統治を行っていた可能性は十分考えられますね。

COLUMN: 001 | 本拠地の場所に見る共通点

水滸伝の「滸」は中国語で「ほとり」という意味。

中国語は英語と同様前から修飾しますので、

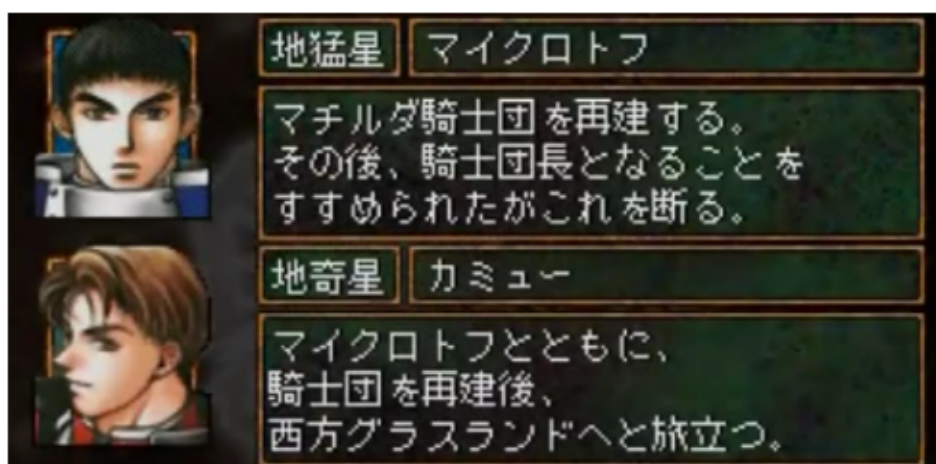
「水滸伝」は「水のほとりの物語」という意味になります。

ともすれば「幻想水滸伝」は「想像、空想上の水のほとりの物語」という意味になりますね。

だから幻想水滸伝シリーズの本拠地は全て「水のほとり」にあるのでしょうか。

XXX: マイクロトフとカミューのその後についての考察（幻想水滸伝2より）

デュナン統一戦争後のマイクロトフとカミューのその後について、幻想水滸伝2のエンディングでは、



となっています。

1人西方グラスランドへと旅立ったかに思われたカミューですが、実はマイクロトフも一緒だったことが「幻想水滸外伝 Vol.2 クリスタルバレーの決闘」で明らかになりましたね。

では何故、再建して間もないマチルダ騎士団を残して2人はグラスランドへと旅立ったのか。

グラスランドと言えばカミューの故郷ですね。カミューはカマロ自由騎士連合の領地持ちの騎士の家系の生まれですが、次男で家督を継げないことから10代半ばで単身マチルダ騎士団領へと渡りました。



上の地図からもわかる通り、グラスランド（緑）とデュナン国（茶）は隣接しているものの、カマロ自由騎士連合（青）はグラスランドの最北端に位置しています。しかも、グラスランド中部（薄緑）はハルモニア神聖国の占領地となっており、恐らく入国することができない。だから、幻想水滸外伝 Vol.2 ではわざわざミリトの村を經由し、L字型にカマロ騎士団領を目指したのでしょうか。

主たる交通手段が馬と船の幻水世界では、とてもじゃないですが簡単に出入りする距離ではありません。カミューにとっては、家を出る=故郷との決別を意味していたはず。ともすれば、デュナン統一戦争

終結で一区切りしたからと言って意味も無く故郷へ帰省…とは到底考えられません。となると、恐らくはどうしても故郷・グラスランドへ帰省しなければならなかった理由があったのでしょう。



カミュとマイクロトフはマチルダ騎士団の入団試験で出会い、同じ日に騎士になり、そしてまた時を同じくしてマチルダ騎士団を離反し、同盟軍に参入しました。しかし2人の大きな違いは、カミュはカマロ自由騎士連合の推薦状を以てマチルダ騎士団へ入団している点です。カミュとマイクロトフの離反に立腹し、「お宅が寄越したカミュが忠誠の誓いを破ってマチルダ騎士団を離反した。もうカマロ自由騎士連合からは推薦を取らない」旨の書状をカマロ自由騎士連合へ送りつける、なんてことは、ゴルドーのやりそうな手口です。

一方、マチルダ騎士団からの書状を受けたカマロ自由騎士連合。しかし、デュナン湖一体は激しい戦乱の最中です。下手に行動することも出来ず一旦は戦況を見守ることとし、デュナン統一戦争終結の一報が入った時点で「カマロ自由騎士連合領へ戻り、事情を説明せよ」という趣旨の書状をカミュへ送った。書状を送ってきたのは恐らくお父さんでしょう。もちろんマチルダ騎士団からの書状が届いた時点で領主同士の話し合いの場は持たれたことなのでしょうが、幻水世界に限らず「お宅の息子のことなんだから、お宅で何とかしなさいよ」というのが世の常ですから……。

そう考えると、マチルダ騎士団の再建後、マイクロトフが団長位を断ってまでカミュと共にグラスランドへ旅立った辻褄が合いますよね。グラスランドから届いた書状。マイクロトフの性格からして、カミュにマチルダを離反させた責任は自分にあるとずっと感じていたはずですから。

「グラスランドへは一人で行くよ。お前はここに残って団長になれ。」

というカミュに対し、

「何を言う、カミュ！！そんなことできるわけがないだろう！！俺も一緒に行って、俺がお父上に事情を説明する！！！」

というやり取りが目につかぶようです（笑）

ちなみに幻水3をプレイすると、15年後、マイクロトフはマチルダ騎士団の団長になっていることが判ります。残念ながらカミュに関する情報は全くの皆無ですが、私は恐らくカミュもまたマイクロトフと共にマチルダ騎士団に居るものと推測します。と言うのも、海外版 Suikoden2 ではカミュのその後について「Reformed Matilda Knightdom along with Miklotov and then journeyed to the Grasslands.」と書

かれています。「旅立った」を「journeyed」と表現しているんですね。「journey」は通常比較的長い旅行を意味し、戻ってくるのが前提で使われます。逆に「戻らない」「行ってしまった」という場合には、一般的な感覚では「left」や「gone」を使います。実際、シンのその後については「Left Greenhill to sharpen his skills as a swordsman, and never returned. (剣の修行のために、グリーンヒルをはなれ、再び、もどることはなかった。)」と表現されています。

COLUMN: 002 「水滸伝」と「南総里見八犬伝」

これはかなり有名な話ですが、

「水滸伝」にインスパイアされて創られたのが

曲亭馬琴（滝沢馬琴）の「南総里見八犬伝」と言われています。

百八星と八犬士とで違いはありますが、作中にも多くの共通点が見てとれます。



幻想水滸伝を初めてプレイした当初は、幻水のモデルとなった「水滸伝」を読んだことがなく全く気が付かなかったのですが、実は、テッドからソウルイーターを継承し、故郷を離れる、というここまでの短いシーンの中にも「水滸伝」と共通するシーンが各所に見られます。

皇帝が代わるにつれ、墮落し、腐敗していく都、というのは言わずもがな、バルバロッサの新しい妃が実は300年前に隠された紋章の村を襲ったウィンディだった、ということを知っているシーン。これは、禁軍（近衛隊）の最高地位まで出世した高が実は禁軍師範・王進が数年前の祭りの夜に母と一緒にいるところを襲われ、退治した時の暴漢だった、ということを知っているシーンに似ています。

また、とある一件から少華山の山賊と意気投合し、山賊達を家に招き入れて酒を振舞う史家村の九紋竜・史進に、一度は捕らえた山賊の一人・陳達を帝国に差し出せば大金が入ったのに……と納得のいかない李吉が山賊が家にいることを帝国に密告する、というシーン。これはまるで、パーンがテッドの居場所を帝国に密告したシーンを想像させます。

密告を受け、間もなく帝国がやって来ると、史進は山賊を匿ったとして反逆者の汚名を着せられ、故郷を捨てることとなります。これも、テッドを匿ったとして反逆者の汚名を着せられ、故郷であるグレッグミンスターを捨てることとなった1主と重なりますね。しかもその際、史進は山賊達に「山寨に来て首領になってほしい」と言われますが、「山賊にはならん」とこれを断ります。1主達を解放軍に迎え入れたいビクトールへの返事を選択肢で一番最初に出てくるのが「だれが仲間になるって言ったんだ」ですし、仮に「解放軍にはいるのもいいかな…」を選んでもグレミオに反対されてしまいますので、この辺もちょっと似ていますね。

水滸伝の天魁星（主人公）は宋江ですが、宋江は最初から登場するわけではなく、一番最初に登場する108星は史進です。しかしそれではプレイヤーが主役となって進めるRPGは成り立たなくなるため、役ではなくシナリオを当て嵌めたものと推測できます。

XXX: レパントを仲間にするための一連のストーリーフローに見る共通点（幻想水滸伝より）



後に 1 主に代わってトラン共和国の大統領となり、幻想水滸伝 2 にも登場したレパント。皆さんは彼を仲間にした時のことを覚えているでしょうか？

レパントを仲間にするための一連のストーリーフローの中にも「水滸伝」との共通点を垣間見ることができます。

幻想水滸伝では、

レパントに会うため、レパントが大事にしているという銘刀キリンジを盗み出す。

→レパントにキリンジを返すと、

レパントの妻・アイリーンが軍政官・クレイズにさらわれたという知らせが。

→軍政官の家でアイリーン救出

→クレイズ処分（or 逃がす）

という流れでしたね。

一方水滸伝は、

林冲が魯智深といるところに林冲の妻が軍政官にさらわれたという知らせが。

→林冲、軍政官から妻救出

→軍政官が林冲の上司である高きゅう（にんべんに求）の養子・高衙内だったせいで恨まれる

→某日、商人から名刀を購入

→その名刀が盗品であるとして、林冲盗人扱い（軍政官の罠）

という話になっています。

レパントの妻・アイリーンも林冲の妻も美女であるとされており、彼女らが夫不在の間に軍政官にさらわれるという点において非常に酷似していることから、水滸伝からインスパイアされて出来た話であることが伺い知れます。「盗まれた銘刀」がキーになっている点もまた、共通点の一つですね。しかし、一つ一つの行（くだり）は似ているものの、一つ決定的に違う点があります。それは「順序」。

幻想水滸伝では、

キリンジ GET → 1 主らと共にアイリーン救出⇒クレイズ処分
という話の流れであるのに対し、

水滸伝では、

妻救出⇒銘刀 GET ⇒罪人として流刑。以降も何度も殺されそうになる
となっています。

この流れを見て既にお気づきの方もいらっしゃるかもしれません。そう、起こった事象と結果が正反対になっているんですね。

先述したように一つ一つの行（くだり）が似ていることから、本シーンは水滸伝が基になっていることは明白であるにも関わらず、話の進行順序とそこから導き出される結果が異なる。つまり、意図的に順序を入れ変えて、「レパントが仲間になる」という結果を導き出す方程式へとあえて作り変えているんですね。と言うのも、水滸伝と同じにしてしまっただけではレパントを仲間にするまでにはかなりの遠回りになってしまうし、幻想水滸伝は小説である水滸伝とは違い RPG なので、視点をレパントに切り替えてシナリオを進めることもできません。従って制作者としては、水滸伝の話を取り入れつつ、5W1H を入れ変えることによって 1 主視点でレパントを仲間にするための端的なシーンへとアレンジしたかった意図があったのではないかな、と思います。

ただ、運命とはちょっとしたボタンの掛け違いで大きく変化することを示唆しているようにも感じ、思わず鳥肌が立ってしまった筆者なのでした。

幻想水滸伝考察本 1

<http://p.booklog.jp/book/114108>

著者 : Annie Tsuji

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/annie-tsuji/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/114108>

電子書籍プラットフォーム : パブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社トゥ・ディファクト